

## サポート

No. 178

令和3年9月3日発行

県教育庁特別支援教育課指導班

## 第20回 秋田県障害者技能競技大会（アビリンピックあきた大会）

7月9日、第20回秋田県障害者技能競技大会（アビリンピックあきた大会）が、秋田市文化会館を会場に開催されました。参加者は総勢42名で、うち県内12の特別支援学校からは40名の生徒が参加しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、例年行っていた職業教育フェスティバルは開催できず、高齢・障害・求職者雇用支援機構秋田支部主催の本大会のみが無観客で開催されました。ピンと張り詰めた空気の中、生徒たちは7つの部門の競技会場に分かれ、緊張や不安、自信、覚悟が入り交じったような表情で課題に挑戦していました。大会に向けた日々の学習と、大会当日の競い合いによって、生徒たちの働く力は着実に高まったと感じます。

部門別の順位は下の表のとおりです。喫茶サービス部門で1位に輝いた、県立比内支援学校かづの校の兜森梨花さん（写真）には県知事賞が送られました。おめでとうございます。



## 〈 成 績 〉

部 門	参加者数	1 位	2 位	3 位
ワード・プロセッサ	4	松本 拓己 (聴覚支援)	高沢 颯 (ゆり支援)	土井 裕斗 (栗田支援)
表計算	4	奈良 和香 (栗田支援)	菅原 彩奈 (きらり支援)	社会人
喫茶サービス	12	兜森 梨花 (かづの校)	堀井 春菜 (栗田支援)	奥山 栞奈 (横手支援)
ビルクリーニング	14	岩崎 陽斗 (天王みどり)	柴田 涼平 (附属特別支援)	森田 郁人 (天王みどり)
木工	3	佐々木 壮 (天王みどり)	佐藤 翔 (能代支援)	中村 理玖 (かづの校)
縫製	2	柴田 剛希 (比内支援)	藤原 瑞穂 (能代支援)	
パソコンデータ入力	3	地主 一聖 (大曲支援)	東海林 楓花 (栗田支援)	野呂田 優真 (栗田支援)
合 計	42	※社会人2名参加		

障害者技能競技大会は「障害のある方の職業能力の向上」と「障害のある方に対する理解啓発と雇用促進」を目的として開催されています。各都道府県における「地方アビリンピック」と、その成績優秀者等が参加する「全国アビリンピック」があります。また、4年に一度「国際アビリンピック」として世界大会も開催されています。

## 事業紹介 「e-AKITA ICT学び推進プラン事業」

(令和2年度～令和4年度)

特別支援学校を対象とした本事業は、目的を障害のある幼児児童生徒の情報活用能力の育成を図るとともに、障害の状態や特性等に応じた学びを推進することとしており、教員のICT活用指導力を高めるための研修の充実を図っています。全ての県立特別支援学校では、指名されたICT活用推進リーダーを中心に、ICT活用計画に基づく計画的・組織的な取組により、授業改善を推進しています。

また、ICT活用推進モデル校として県立聴覚支援学校、県立横手支援学校を指定しています。2校には、公開研究会により実践と研究の成果を発信し、県内特別支援学校のICT活用の促進に資することを期待しています。公開研究会は、県立聴覚支援学校が令和3年12月13日、県立横手支援学校が令和4年1月26日の予定です。

7月8日には、第1回ICT活用推進リーダー研修会を行い、県立特別支援学校のICT活用推進リーダー14名が参加しました。実践報告では、ICT機器を活用した工夫ある取組が各校から紹介され、特別支援学校においてもタブレット型端末や電子黒板等の活用が広がってきていることを実感しました。

### < 実践紹介 >

第1回ICT活用推進リーダー研修会の実践報告から2校の取組を紹介します。

#### 県立聴覚支援学校

高等部情報デザイン科 「デザイン」

Web会議ツール「Zoom」を使ったオンライン鑑賞教室として、福島県の諸橋近代美術館のワークショップに参加しました。情報保障として音声文字変換システムと手話を使用することで、生徒が自分に必要な方法で情報を得ながら、学芸員の方とやりとりし、学習を進めることができました。



#### 県立比内支援学校たかのす校

小学部 自立活動（健康の保持）

運動記録アプリをSRCウォーカーでの歩行の記録に活用しています。GPS機能により、歩行の軌跡や歩行距離の記録が示され、活動の結果が視覚的に分かりやすく、本人の活動意欲につながりました。



8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月

12 アクティビティ 2時間 37分 時間 4.3 km 距離

## 令和3年度 特別支援学校教育課程研修会

令和3年8月3日（火）  
県庁第二庁舎大会議室

特別支援学校における教育課程の改善及び充実に向け、新学習指導要領の円滑な実施やカリキュラム・マネジメントの推進に係る講話、説明、発表を行いました。各特別支援学校の副校長又は教頭、学部主事が参加したほか、各校とオンラインでつなぎ、会場参加以外の教職員とも情報共有することができました。



参加者からは、「カリキュラム・マネジメントの取組例が分かりやすく、自校の状況についても考えやすかった」「2校の特色ある取組を具体的に知ることができ、大変参考になった」「カリキュラム・マネジメントの三つの側面に係る取組と課題についてまとめられていて分かりやすかった」などの感想が寄せられました。

カリキュラム・マネジメントは、全職員が自己の役割や職責に応じて取り組めるよう、相互の連携や確認をした上で進めることが大切であることを共有できた研修会となりました。

### 内 容

【講話】「新学習指導要領の円滑な実施に向けて

～カリキュラム・マネジメントの推進に係る取組を中心に～

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 加藤 宏昭

【説明】「県内特別支援学校におけるカリキュラム・マネジメントの実施状況について」

特別支援教育課 指導主事 菊地 真理

【発表】「カリキュラム・マネジメントの推進に係る特色ある取組」

県立秋田きらり支援学校 教諭 小松 美幸

県立稲川支援学校 教頭 高橋 和恵

## 新任特別支援教育コーディネーター研修会

県北：北秋田市民ふれあいプラザ  
県央：総合教育センター  
県南：横手市 浅舞公民館

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止となりましたが、今年度は会場を3地区に分散し、一部オンライン研修を取り入れながら6月に第Ⅰ期を開催しました。受講対象は、各校（園）で今年度新たに特別支援教育コーディネーターに任命された職員で、今年度は332名とこれまでで最も多い人数となりました。また、令和元年度までは年3期でしたが、研修内容を「秋田県特別支援教育校内支援体制ガイドライン（三訂版 増補版）」に沿って見直し、年2期の開催としました。今年度の第Ⅱ期は、県北・県央地区が10月12日（火）、県南地区が11月2日（火）の開催予定となっています。

共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進には、各校（園）の特別支援教育コーディネーターを核とした組織的な取組が欠かせません。本研修の各講義等の内容や、前述の「校内支援体制ガイドライン」など活用し、各校（園）において、より一層特別支援教育の推進が図られることを期待しています。

◎特別支援教育コーディネーターは、校長（園長）からの指名を受け、各校（園）で特別支援教育の推進のため、主に、校（園）内委員会及び個別ケース会議、校（園）内研修会の企画・運営、関係機関との連絡・調整、保護者からの相談窓口などの役割を担います。